



かしはらナビプラザ

を言う場が欲しかったとのことであるため、再度ご当地ナンバーを考える会を開催する。

**問** かしはらナビプラザは、中南和観光の情報発信基地とのことだが、中南和全体ではどういうことをしているのか。

**答** イベントスペースで、各地域の観光展等をしている。各地域のマップ、パンフレットは掲示しているだけではあるが、宿泊、回遊型の観光コースの紹介等も行いたい。

**問** 周辺地域の宣伝もすればするほどパイが大きくなっていく。ほとんど他地域の宣伝もしていくべきだと思うが、橿原観光協会は他市の利益を目的に運営できるか。

**答** あくまでも本市の観光協会であり、県全体など広域的には、観光ビューローと連携

## 奈良県北部と 中南和の格差

強化しつつ進めていく。今後は、本市観光協会においてもそういう視点で努力していただくよう、話をしていきたい。

**問** 県北部の生駒市、奈良市と、中南和地域の香芝市、高田市、橿原市、桜井市の15万人の人口差の理由は何か。

**答** 生駒市の場合は、特に大阪近郊に通勤されている人の多い完全な住宅都市である。また、面積差もあるが本市に比べると開発可能地域が多くあるためではないかと思う。

**問** 本市は、観光と商業で頑張るべきだと思うがどうか。

**答** 商業面では、例えば小売業の年間売上額や、製造業の事業者数、大型小売店舗の床面積等を比較すると、本市と生駒市では相当な開きがあり、生活上の利便度においては、本市がかなり進んでいる。

**問** 橿原市第3次総合計画の目次には観光がない。本当中南和の観光発展に力を入れているのか。

**答** ご当地ナンバーを契機に、今後、中南和の連携等、

協働して観光振興に努めた

**問** 八木駅南側への市庁舎移転計画があるが、中南和観光から商業の発展のための起爆剤になるのか。

**答** 観光するには、やはり滞在してもらうことが必要であると考え、観光拠点になるように、ホテル、商業施設、一部移転する庁舎を含めた複合ビルの建設を計画している。

今後、予算面においても、もう一度観光に力を入れたい。

**問** 都市開発特別委員会においては、全面移転と聞いている。一部移転なのか。

**答** ホテル、商業施設等を含む複合ビルということを考えると、全面移転はできない。

その規模については、アドバイザリー業務の中で検討する。

**問** 上層階にホテル、下層階に商業施設。そして中層階であるが、モールのような施設が入るのと庁舎が入るのと、どちらが観光のためによいと考えるか。

**答** 総合窓口を含む庁舎の一部を移転していきたい。

**問** 庁舎移転により、八木駅周辺の発展を諦めたのか。

**答** 庁舎を含む複合ビルによ

り、申請等が一度にでき、市民サービスにもつながり、人の賑わい、交流が深められると考えている。

**問** 第3次総合計画によると、「活力と賑わいのある元気なまち」が基本構想のようだが、庁舎が前面に出てくると、これに反するのではないか。

**答** あくまでも複合ビルであり、人が集える場所を提供していきたい。ホテルがあれば、観光拠点になることを含め、商業の活性化、中心市街地の活性につながると考えている。

## 組織統治

**問** 教育の独立性とはどのようなものと考えているか。

**答** 地方教育行政の組織及び運営に関する法律において、市長の教育に対する職務権限は限定的なものとなっており、教育行政が一般行政からの関与という点で距離、独立性を保っているという実態がある。ただし、学校の設置者は市であり、その部分での市長及び市長部局の責任、関与というものはあり得るかと思う。様々な議論がなされてい

るが、本市は現行法に則った範疇での独立性の中で運用している。

**問** 市長及び市長部局は、その職務権限で何ができるのか。

**問** それぞれの事象に対して、協議して対応したい。

**問** 市内女子中学生転落死について、「いじめと自殺の因果関係は低い」との発言を撤回したり、市の元顧問の委員の方が辞任したりした。このことは、マスコミ取材が入れば方針を撤回するのではないかという印象を与えたのではないか。メディアが報じなかった場合は撤回しない可能性はあったのか。

**答** 記者会見等において不慣れな点もあり、反省する部分もあったかとは思いますが、事象は時々刻々と変わっていく。その中で、マスコミ云々に関わらず、発言を撤回せざるを得ないような状況もあるかと思う。その時点の最適な対応を考えていきたい。

**問** 本市では、いじめ対策にどのような対策が必要か。

**答** 予防という観点では、いじめや不登校等の対策に関わる教員、スクールカウンセラーなどの充実。また、事態が